

きゅうでん隈上川通信

(第2号/令和5年7月)



うきは市のみなさま、お世話になっております。

今回のきゅうでん隈上川通信では、旧浮羽郡における電気の歴史について紹介いたします。

日本に初めて電灯がついたのは、明治15年(1882年)11月11日東京銀座にアーク電灯がつけました。時あたかも鹿鳴館時代、人々が洋風に心酔している頃だったようです。



浮羽郡内に電灯がついたのは、吉井町と田主丸町(村落部を除いて)に明治33年(1900年)2月28日に日田水力電気株式会社(石井発電所)からの送電開始が始まりだったそうです。

浮羽郡内の発電所の歴史は、浮羽水力電気株式会社が開業し、大正3年(1914年)10月に小塩発電所、大正8年(1919年)8月に栗木野発電所、大正10年(1921年)3月に橋詰発電所が完成し、送電を開始したことにより浮羽郡内でも石油ランプに代わって電灯が普及し生活が大きく近代化したそうです。



浮羽郡内で、初めて電灯が灯ったのは明治33年で東京銀座から遅れること18年、八幡製鉄所が操業を開始する頃で、本格的に北九州の近代工業化が始まる頃だったんだね。
このあいだ図書館の郷土史を読んでいたら、その当時の浮羽郡は2町、14村に分かれていたんだって。
どんな町や村があったのか後で紹介しますね。

うきは市にある九州電力の発電所の位置やどんな発電所なのは後で紹介してもらえますよ。

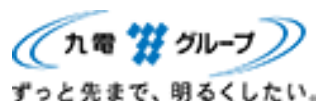


電気のある時代に生まれて良かったな。
昔だったら、テレビも見られないし、テレビゲームもできなかったんだね。

きゅうでん隈上川通信事務局 (九州電力(株)佐賀支店内)

(技術部：中原、立地コミュニケーション部：秋山、佐賀水力事業所：若山)

☎:0952-33-1123 (平日9:00~17:00)



浮羽郡図

うきは市の図書館にある郷土史に記載されていた明治時代の浮羽郡図ですよ。

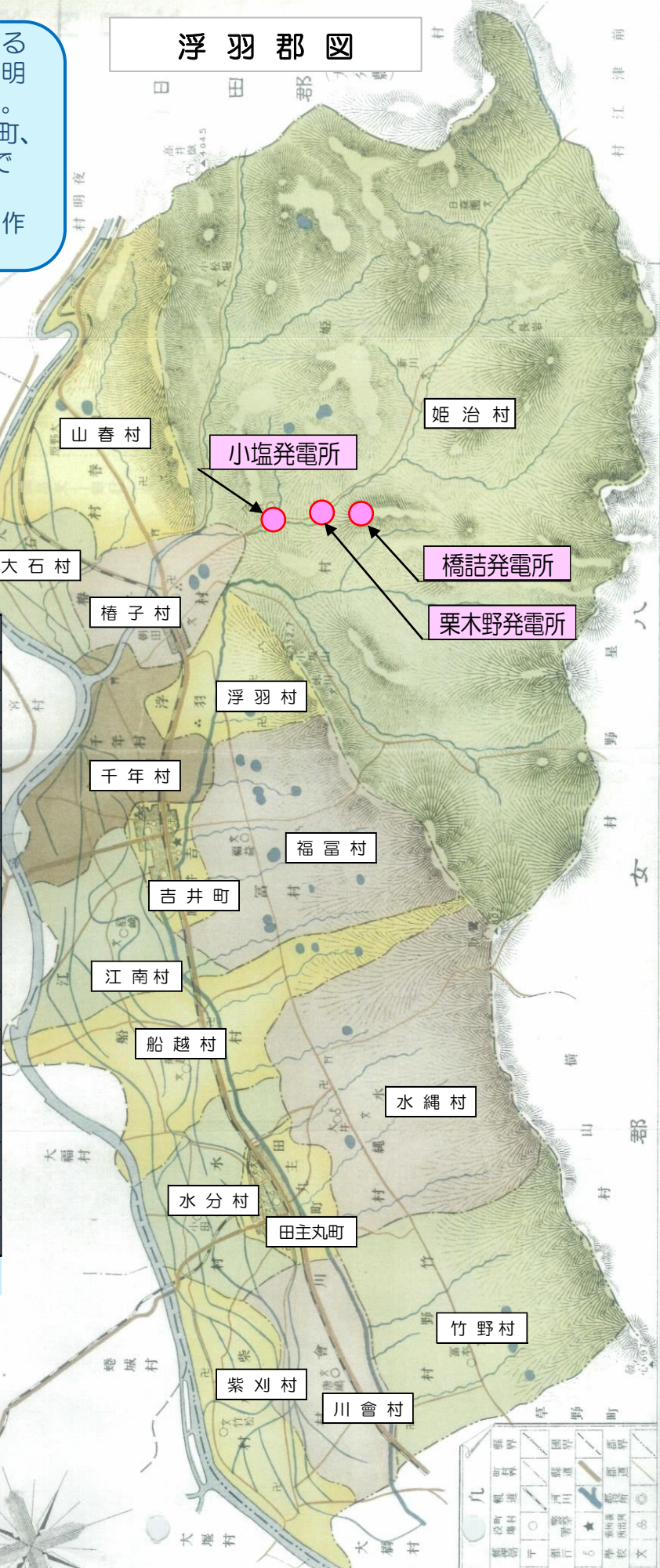
明治時代の浮羽郡は2町、14村に分かれていたんですね。

発電所は全て姫治村に作られたんですね。



No	町村名
1	姫治村
2	山春村
3	大石村
4	椿子村
5	浮羽村
6	千年村
7	福富村
8	吉井町
9	江南村
10	船越村
11	水縄村
12	水分村
13	田主丸町
14	紫刈村
15	川會村
16	竹野村

※上から順に記載



橋詰発電所



発電開始年月	大正10年3月
最大出力	150kW
使用水量	0.42m ³ /s
落差	49.26m

栗木野発電所



発電開始年月	大正8年8月
最大出力	60kW
使用水量	0.75m ³ /s
落差	12.70m

小塩発電所



発電開始年月	大正3年10月
最大出力	420kW
使用水量	0.83m ³ /s
落差	66.12m